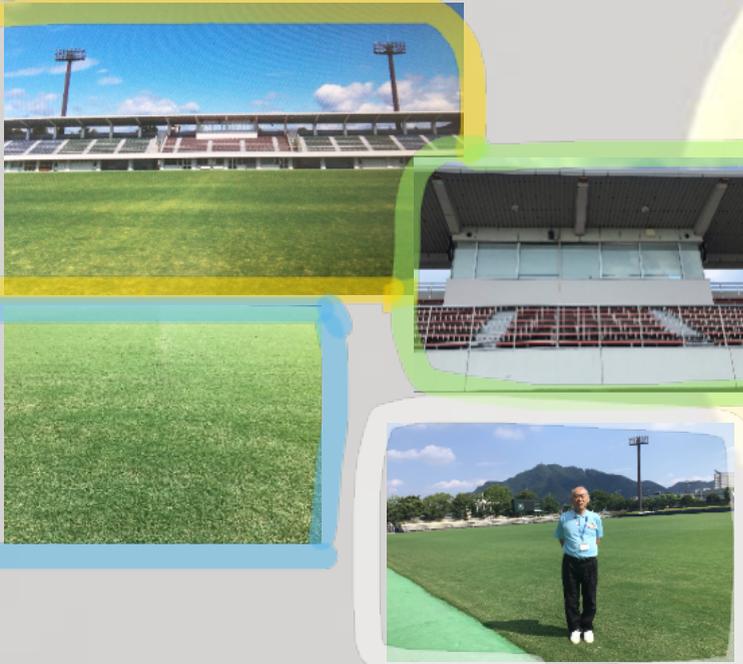


紹介したい場所

長良川球技場



インタビューに対応してくださった方
岐阜県スポーツ協会 施設課
朝原さん

働く上で地域のために大切にしていること

長良川球技メドウはサッカー・ラグビー等の大会専門のスタジアムです。どんな人が利用しているかについて話を伺うと、

「利用する方は主に大学の**チームなどの団体**で、中でもぎふ以外の場所から初めてチームとして利用しに訪れる方が多く、メドウを分かりやすく快適に利用できるように、説明を事前に十分にさせていただくことを心がけています。」という回答をいただきました。

また、朝原さんはその中で利用者に向き合っ**コミュニケーションを取ることを**行なっており、

「時には話し手になり時には聞き手になり、改善点があればその規模に応じてメモリアルセンターとも連携をとり、利用者の希望に応じていくことも行なっております。」ということをお教えました。

僕はここから、朝原さんはとても丁寧に利用者のためにも思って、管理の仕事をしているなと思いました。

その後、実際に行った取り組みの一つに関係する、芝生を見せて下さいました。

その取り組みというのが、メドウの実際に試合をするグラウンドに芝が生えているのですが、以前はそれは常にはなく、冬の間は枯れて無くなってしまったそうです。何が問題か分かりにくいのですが、後に調べたところ、芝はサッカーをする上でいい働きをするそうで、そのためか、とある利用者から、「**芝が常に生えているようにしてほしい。**」という要望が来たことがあったそうです。(その後似た意見が何件も来た。)

そこで朝原さんは冬でも芝が残せるように、冬にも残る「冬芝」と呼ばれる種類の芝を植えられるようにして、**一年中同じようなグラウンドにすることに成功した**そうです。

僕はこの話を芝を見るなり聞いて、常に終わりを決めずに取り組みを行ったりすることもすごいことだと思いましたし、管理を行なって常に同じような状態をキープし続けたりすることはとても大変だということを実感しました。しかしそれは選手の人生の一部を支えるために重要なことだと思うので、これからもその方針を残してほしいと思いました。

岐阜市で働く理由、岐阜市のよさ

朝原さんが感じる岐阜の良さは、仕事柄や働きぶりが映し出されていると思いました。

「私はずっと岐阜県に住んでいて、岐阜市中心で勤めているのですが、その時に岐阜は優しい人が多いので、非常に働きやすかった覚えがあります。そして私自身も仕事をしていく上で、コミュニケーションを気をつけて来たつもりです。」

朝原さんは施設課としての仕事が今年で七年目となり、これまで出張先も含めて様々な人と関わり、メモリアルセンターで勤めている方々とも交流が多かったそうです。

僕は答えてくださった話を聞きながら、その受けた思いやりを活動としてさらに広がっていけることが大切だなと感じて、この話では朝原さんの活動として広がっているなと思いました。

施設や店舗を利用される方々へのメッセージ

これからも利用者の要望に応えながら、利用がしやすいように最善を尽くしていきます。観客として利用することができるので、ぜひ利用してみてください。

インタビューをして感じたこと

僕は今回のインタビューを振り返り、この広い施設のそのままの状態をそのまま管理していくだけで、僕はとても大変だと思っていたけど、今回インタビューして、常に誰もが利用しやすい、スタジアムという場所の在り方であるために、これからも最善を尽くしていこうという志を感じました。僕はそれを是非これからも続けて、今どこかにいるサッカー選手の人生を支える柱の一つになったり、観客の誰かの思い出の一つになってほしいなと思いました。

また、いつも学校で話題に出ていないだけで、このぎふには今もかげで支えている場所があるかもしれないと思ったので、これからも総合学習として気になったことを調べ「これって大切だな。」と思えるきっかけを作れるようにしようと思いました。